

脳卒中における リハビリの重要性

札幌宮の沢脳神経外科病院

医師 井上 道夫

言語聴覚士 藪 貴代美

治療法の進歩などで脳卒中は日本人の死因の4位に後退しましたが、後遺症が残る例は多く、要介護の原因疾患の1位です。そこで重要になるのが、急性期から回復期、そして退院後のリハビリです。

リハビリは、医師のほかに、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）など多くの専門職がチームを組み、病気や後遺症の状態をみて、患者さんやご家族の希望を聞きながら、目標やプログラムを提案、訓練を進めていきます。

リハビリは、できるだけ早くから行うことが大切です。発症直後で患者さんの意識がなくても、腕や脚の上げ下ろしなど関節を動かすようにします。病気の状態が落ち着いたら、本格的なリハビリに移ります。立ち歩きなど運動機能の回復を図る理学療法はPTが指導。自立生活を援助する作業療法はOTの下、食事や着替えなど生活に必要な動作を訓練します。失語症や飲食物をかんだり飲み込んだりする機能の訓練はSTの担当です。

リハビリの目的は、その人に残った機能を低下させず、回復してきた脳の力を引き出し、また、障害が残っても生活できる方法を身に付けることです。後遺症の回復の程度は人それぞれで、リハビリの限界を伝えなければならぬこともあります。いずれにせよ、発症から退院後の各ステージでの不断のリハビリが、日常生活の回復に非常に重要になります。



言語聴覚士 藪 貴代美 医師 井上 道夫

24時間救急対応 脳ドックあり



地下鉄東西線「宮の沢」駅 5番出口より徒歩4分

西 区

■診療科目/
脳神経外科・神経内科
整形外科・糖尿病内科
リハビリテーション科

■外来診療時間/
月～金曜 9:00～12:00
13:00～17:00
土曜 9:00～12:00

明日佳グループ
札幌宮の沢脳神経外科病院

札幌市西区西町南20-1-30 (旧国道5号沿い)

☎011-664-7111